

林間ワサビ栽培マニュアル

林内でワサビ栽培を始めてみませんか？

林間ワサビとは・・・

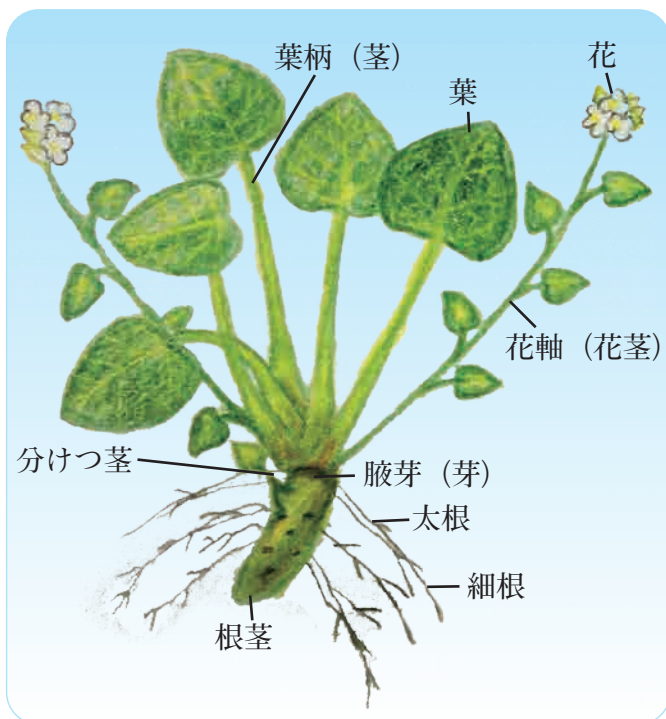
ワサビ栽培には「沢ワサビ」と「畑ワサビ」がありますが、品種が異なるわけではありません。栽培する環境・方法に違いがあり、沢ワサビは養水が十分に利用できるような地域でワサビ田を造成しますが、畑ワサビは直接水を利用せず、畑や比較的湿度が高い冷涼な山林で栽培します。畑ワサビのうち、林内で栽培するものを林間ワサビといいます。

一般的に、畑ワサビは沢ワサビに比べて品質では劣りますが、栽培地が広範囲で設備投資がかからず、栽培に要する労力が少なくて済む利点があります。

皆さんも、森林の手入れをしながら林間を利用してワサビ栽培を始めてみませんか？

ワサビはこんな作物

根茎だけでなく、花芽・葉茎など**全ての部分が辛く**、食用になり、捨てるところがありません。



栽培事例

村上市ではこのような場所で試験栽培をしています。

①中継地域 スギ：70年生(500本/ha)



②高根地域 スギ70年生(700本/ha)



栽培こよみ

苗の植え付けは、春植え（3月～4月）と秋植え（9月～11月）がありますが、**積雪地帯では秋植えが一般的**です。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 年 目 (植 え 付 け 年)												
									6～9月	9月～11月		

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2 年 目 (育 成 年)												

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
3 年 目 (収 穫 年)												

*花芽を収穫（摘花）すると葉や根茎の生育が良くなります。葉茎だけでなく花芽も需要があり、販売対象になります。

*栽培期間の3年が終了したら、次の栽培地の準備をしますが、**連作障害を避けるために次の植え付けまで5～6年は空ける**必要があります。



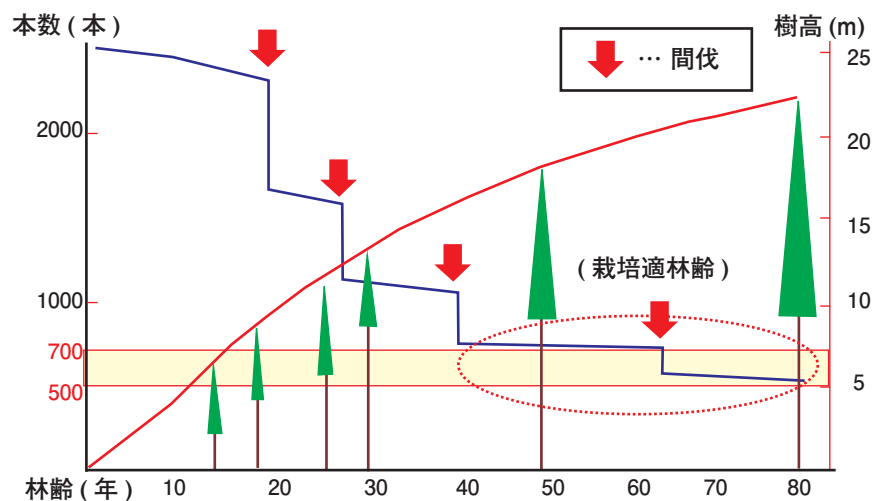
花 芽

栽培地選定 気温により病虫害の影響を受けやすいため、**適地に植えることが重要**です。

気温	土壌	その他条件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生育温度 6～20℃ (適温 8～18℃) ・ 25℃を上回る場所では病害の発生が著しい ・ 冷涼な場所が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排水性、保水性に富む 礫質、砂質土壌、黒ボク土 ※粘性土は「×」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風通しの良い傾斜地 ・ 北、東北向き ・ 軽トラ等で苗や肥料の運搬が可能な場所

栽培に適した間伐林分 >>>>>

- 1ha あたり、
500本～1000本くらい
(相対照度 15%～20%)
- 間伐を数回行い、**40年生前後**から栽培に適した林床になります。



参考「施行体型図」(新潟県下越地域森林計画書より)

栽培手順

<定植準備>

- 消石灰を 10～15kg/a 散布し pH を整える。
⇒ワサビの適正 pH は 6～7
⇒アルカリ性が強いので 2 週間前に行う。
- 耕す深さは 30～40cm 以上
- 堆肥や溶リンなどの元肥を施用し、さらに耕うんします。

<定植>

- 植え付け本数は 10a あたり 2,500～3,000 本
2500 本⇒平畝 苗間隔 約 65cm×65cm
3000 本⇒平畝 苗間隔 約 53cm×53cm
- 根の生長を妨げないように深めに掘るが、成長点のある葉の根元を覆うような深植えはしない。

<栽培管理>

- 施肥：4月上旬・(5月中下旬)・9月上旬に1回ずつ
⇒1a あたり三要素(窒素・リン・カリ)をそれぞれ 1.2～1.5kg 程度を分けて施用する。
- 摘花：種子を採取する場合以外は摘み取る。
- 除草：苗の生育を見ながら年 2 回程度行う。

<収穫>

- 植え付けをしてから 1～2 年後
- 全て丸ごと収穫する(残さない)
- 鍬で丁寧に掘り起し、土を落としてから水洗いする
- 出荷
 - ・ 葉柄や花芽を束にし、直売所などへ
 - ・ 加工用として